

自衛隊神奈川援護懇話会総会を支援

「就職援護に関する情報共有と就職援護基盤の充実」

自衛隊神奈川地方協力本部（本部長 兼本貞祐 一等海佐）は、令和元年7月2日（火）、令和元年度自衛隊神奈川援護懇話会総会を支援した。

同援護懇話会は、神奈川県内の企業が自衛隊退職者の就職援護等について協力し、県内産業の発展に寄与するとともに、自衛隊の健全な育成維持に貢献することを目的として設立され今年で39年を迎え神奈川県商工会議所連合会を中心に200社を超える企業が加入している。

横浜市内で開かれた総会では、会長である神奈川県商工会議所連合会会頭の上野孝氏から、懇話会会員に対し平成30年度の退職自衛官採用について感謝の言葉が述べられた。その後、平成30年度の事業報告と収支決算書の報告がされたあと、令和元年度の事業計画と収支予算書などの議案が審議された。

全ての報告や議案終了後には、海上自衛隊横須賀地方総監部 参事官 林浩一氏による講演「改めて神奈川の自衛隊を見つめてみるー海上自衛隊横須賀地方隊を中心にー」が行われた。神奈川県内の自衛隊・在日米軍の概況や海上自衛隊横須賀地方隊の概要など、写真を見ながら理解を深めた。昨今、自然災害や事故の発生が増えつつあり、自衛隊に期待する役割も多いため、会員らは熱心に耳を傾けていた。

また、講演後の懇親会では自衛隊関係者も参加し、会員企業と就職援護に関する情報交換が積極的に行われ、就職基盤の充実が図られた。

神奈川地本は、「今後も、自衛隊神奈川援護懇話会の活動を支援し、更なる自衛隊への理解を深めるとともに、一人でも多くの退職自衛官の雇用に結びつけるよう努力していきたい」としている。



林氏による講演

中学校で体験型職業講話

～映像と射撃音等を活用したリアル体験で臨場感を味わう～

自衛隊神奈川地方協力本部 上大岡募集案内所（所長 平原一陸尉）は7月5日（金）、横浜中学校（横浜市）で実施された全学年合同「体験型職業講話」を支援した。これは、「キャリア教育の一環として、様々な職業の方を講師として学校に招き、講話・体験を通して活動をさせ、生徒の進路選択・決定に対する視野を広げさせる」を目的に実施されている。担当教諭からも「職業観や勤労観、あるいは仕事や職場の魅力、更には仕事を続ける上での厳しさを含め働く現場をリアル体験で学ばせてください」等の要望を受け、講師として陸上自衛隊横濱駐屯地 中央輸送隊 健康管理室勤務の**笛木准尉**（ふえき）を迎え、当日は中学1年から3年の14名と教諭3名が講堂に集まった。当初、「テロ等発生時の際の対応方法」「負傷者の搬送要領」「負傷者に対する止血法実習」等について、資料映像による説明、続いて実演及び体験実習を行った。参加した生徒からは「映像と射撃音等を活用したリアル体験は、臨場感があった」や、止血帯による「止血法」の実習では、自分の血液の流れの変化に驚くとともに「止血＝命を助ける」という講師の言葉を聞き「生きる上での知識を多く学べました」「これからはいざという時に備えておきたい」等の感想を聞いた。

上大岡募集案内所は、「今後もこのような体験型職業学習を支援し、学校教育の目的達成に寄与していくとともに、自衛隊を積極的にPRし、募集成果に繋いでいきたい」としている。



止血法を体験



射撃音に防護体勢をとる生徒達



笛木准尉の概要説明に聞き入る生徒達